

OMC事務局 〒560-0085 豊中市上新田4-16-1-33 合原一夫 TEL06-6833-9227
 広報編集局 〒573-1171 枚方市三栗1-18-20 前田茂夫 TEL072-850-5781
<http://www6.ocn.ne.jp/~nakabc/omc-news/kaiho.htm>

平成26年7月(2014年) No.583

大変悲しいお知らせです

合原会長のご内室さまがご逝去されました

去る6月11日合原会長のご内室さまがご逝去されました。衷心よりご冥福とお悔やみを申し上げます。福岡県柳川出身の合原さんは、同じ福岡県出身の奥様と結ばれ飯塚の日鉄鋳業勤務を手始めに東京、大阪とサラリーマン生活を送ってこられました。奥様とは大変仲がよくご夫婦と子供さん達が登場するホームムービーを得意とされ、多くの観客に感動を与えてくれました。

奥様とはよくお二人で海外旅行をされ私たちに素晴らしい作品を見せて下さいました。また奥様はスチール写真を趣味にされ、写真集にも取り上げられたり写真コンテストに多数入賞されたと聞いています。これまで奥様が登場する作品は数多く拝見してきましたが、やはり一番印象に残っている作品は平成24年10月のOMC公開映写会作品「妻の誕生日」です。これまで何度も大病を患い、その都度持ち前の元気さと明るさで乗り越えてこられてきました。作品は二人でケーキを前に対面しながらこれまでの長い人生を振り返るという作品です。作品の中には話題となった旅の場面が挿入されて思い出を語られます。なかでも印象的なのは、奥さんが「長生きしたわ…。70歳まで生きられるかどうかとっていたが、6歳儲かった。60頃からいつ死んでもいいとっていたが、まだ生きているからね。」とさらりと云われます。その言葉に返す合原さんの言葉が、何とも円熟のご夫婦の味わい深い会話でした。よく映写会へ来られた奥様のお姿が偲ばれます。また奥様は大変器用な方でした。フィルム時代の昭和50年か51年頃、合原さんの企画で松茸の人工栽培に挑む男のドラマタッチの撮影会作品ですが、その小道具に奥様が作られた「松茸」の余りにも見事な出来映えに驚愕しました。石膏と和紙で作ったものですが本物と見間違える素晴らしい出来映えでした。その後も手毬、華道等々卓越した腕前を披露されました。数々の思い出は尽きませんが、故人のご冥福を心からお祈り申し上げます。

(広報 前田記)

7月例会と公開審査会のお知らせ

7月例会と撮影会作品の公開審査は第4土曜26日午後1時より難波市民学習センターにて開催します。午後1時から公開審査を、午後6時から例会を行います。撮影会参加者は全員、参加されなかった会員さんも出来るだけご出席され投票にご協力下さい。

大阪アマチュア映像祭の日時変更

先月号で大阪アマチュア映像祭の開催日は11月3日(文化の日)とお知らせしましたが、大阪市立中央図書館の都合で、前日の11月2日(日)に変更になりました。

◆撮影会作品の公開審査実施

例会日の7月26日午後1時より実施されます。多くの会員諸氏のご参集をお願いします。

◆第3回懐かしの映像を楽しむ会

9月7日(日)に第3回懐かしの映像を楽しむ会が難波市民学習センター講堂で開催されます。プログラム等詳細は追ってお知らせいたします。

◆西井学さん再入会

4年前に退会した西井さんが再入会されました。〒524-0043 滋賀県守山市二町町30-46 TEL:077-582-4803 E-mail:nanusa.mn.jp@nufty.com

6月例会のレポート

6月の例会は梅雨の中28日の午後6時より第4研修室で開催しました。司会、合原氏、デッキ係に河合氏、江村氏、受付兼照明係を宮崎、華岡の両氏、書記、前田の担当で進行しました。

◆出席者：有村、上田、江村、上総、紙本、河合、黒田、合原、進藤、関、高瀬、鉄具、西井、野田、華岡、前田、宮崎、森口、森下、森田、山本、吉村、渡辺(敬称略)の23人と作品本数16本でした。

◆上映作品(今月の講評は前田世話役)

1. YOSAKOI 2012 (BD)

江村一郎 7分50秒

これまで何十本のよさこい作品を観てきたでしょうか、今回の雨中のよさこいは大変迫力満点でした。最初は小雨の様子が段々に夕立が激しくなり大粒の雨に濡れて全身びしょぬれになりながらも音楽に合わせて踊る若者の姿に雨なんかには負けないぞという強い気概が感じとられました。この作品は江村流とも云うべきアップの多用と畳み掛けるような編集の技がなかったのは大雨で撮影が難しかったためでしょうか。

2. 智頭急行各駅下車の記(第5編)(BD)

紙本 勝 12分25秒

智頭急行線の第5編作品でこれで終了だそうです。過去の紙本作品は、お城物語シ

リーズ、街道シリーズ、お祭りシリーズ等特色或る多くの作品を発表されてこられました。今回のローカル鉄道シリーズは非常に親しみが湧いて毎回期待をしながら観賞しました。最後は智頭の古い町並みを紹介しご自分の感想を述べてこの鉄道紀行の旅を終えます。よく下調べをなされ鉄道の風景と地元の風物がうまくミックスされ、毎回味わいの或る作品に仕上がっていると思います。これからも木次線、芸備線、姫新線、津山線、因美線、若桜鉄道線等日本の原風景のような情感あるローカル路線はまだ沢山ありますので、また見せて頂きたいものと期待しています。

3. あじさい園の詩 (BD)

上田吉巳 とんぼいけ 7分25秒

岸和田にある府営蜻蛉池公園であじさいを撮ってこられました。丘陵地にあり1.6ヘクタールもある広大な敷地に40種類1万株のあじさいが植えられているそうです。赤、青、紫、黄色の大輪のあじさいは見事です。早朝に行ったので見物客を入れずに撮影されています。またスプリンクラーから水滴をかけられ生き生きとしています。晴天の下での花色も綺麗ですが、あじさいはやはり梅雨の花ですので、雨にしっとりと濡れたあじさいも見てみたいものと思いました。

4. 桜のスケッチ・奈良 (BD)

前田 茂夫 5分15秒

桜咲く奈良公園で撮影して来ました。奈良の鹿には時たまに出かけて行って会うことを楽しみにしています。鹿寄せには食パンを細かく刻んだもの(塩分糖分のないもの)を持参し与えます。「来ーい、来ーい、来ーい、来ーい」と節を付けて呼ぶと必ず振り却ってくれますから食パンを与えます。タイトルと内容が一致しないとのコメントがありました。

5. お熊甲祭り (BD)

河合源七郎 11分25秒

能登 七尾市中島町の久麻加太都阿良加志比古神社の秋の大祭の様子を撮ってこられました。作者は幾度となく能登でキリコ祭り作品で楽しませてくれました。今回はキリコではありませんが、神輿、猿田彦道中、カネや太鼓、巨大な杵旗等これまでの能登の祭りと一寸変わったお祭りの情景が繰

り広げられます。19の部落から祭りに参加しますが、それぞれの部落で足りないものを補い合って協力して参加しているそうです。やがて神社では神様に到着を報告する「参入」が始まり祭りは盛り上がって行きます。大きくて長い杵旗の先端を地面に着けずに真横に倒すという大技「島田崩し」を行ってクライマックスに達します。今回も能登半島に伝わる数々の祭りを見せていただきました。能登は地方色豊かな祭りの宝庫のようです。

6. チェファル (BD)

華岡 汪

6分35秒

イタリア半島の先にある長靴に蹴飛ばされたようなシチリア島のチェファルを訪問された作品です。これまで毎月のように海外旅行作品を撮ってきて纏めてこられる努力には感心します。リゾート地の一つのように多くの人々が訪れるそうです。フェニキア→古代ギリシャ→ローマ帝国→ノルマン人→スペイン→フランス→イタリアに併合され続けた苦難の歴史があります。それだけに自らを守る強い自立心があるようです。極々狭い通路、向かいと引っ付きそうな窓と窓、イスラムやヨーロッパではよく見られる風景です。「他民族に蹂躪され続けた歴史を知って日本に暮らす幸せを心に刻むことになりました」と結んでいます。華岡作品は外国地域の紹介に終るのではなく自分の印象をしっかりと語っておられました。

7. 中ノ島を歩く (BD)

有村 博

9分43秒

天神橋の東端、剣先公園から始まります。バラ園も何年か前はこのような美しく整備されていなかったそうですが、満開のバラに会いに多くの人々が楽しんでいきます。難波橋のライオン像から公会堂へと移っていきます。公会堂と背中併せに立つ中ノ島図書館、淀屋橋、淀屋の屋敷跡、大阪市役所、日銀大阪支店など大阪の中心的名建築が紹介されていきます。今のフェスティバルタワーの前々身の朝日アリーナは筆者も度々訪れた思い出深い所でした。作品は肥後橋で終わりとなりましたが、「大都会の姿もすこしづつ変化してゆくようです」という結びの感想に同感しながら作品を観賞しました。

8. 神戸北野物語 (BD)

進藤信男

10分55秒

神戸には生田神社を中心に一から八までの名前の付いた八宮神社があり神戸の守護神となっており、地元の人々は八つの神社を巡って祈願するそうです。北野界限に点在する異人館を巡り神戸港と北野町の歴史に触れながら、北野の魅力を紹介していきます。途中歴史的背景を説明する際にモノトーン画面になりますが、雰囲気醸成し成功していると思います。その後沢山の異人館が紹介されていきます。戦後復旧し見事に甦った北野町が多くの人々や若者たちの人気の的になっているのがよく判ります。過日日本アマ連盟の撮影会で北野町の一部を歩きましたが、この作品を見ると更に北野町がよく理解できました。

9. 学徒門脇禎二先生の思い出 (BD)

黒田敏彦

17分55秒

昨年11月例会で拝見した作品を少し短くして持参されました。作品の内容は京大出身の日本古代史専門の歴史学者 故門脇禎二先生の思い出を綴った作品です。ご本人がこの世にいない映像作品にするにはさぞご苦労があったことと推察いたします。奥さんや娘さんとのインタビュー、ご本人の講演の映像、奈良女子大名誉教授佐藤先生のお話、その他もろもろの資料を配置し門脇像を浮かびあがらせる手法は大変難しく、ご苦労の跡が見て取れます。作品制作過程でも、肖像権、著作権のクリア、テロップ作成の苦労等々制作に1年半かかったそうです。難しい内容を判り易く作られており素晴らしい記録作品となっています。映写会作品の大トリを飾るのに相応しい作品ではないかと思えます。

「学問の目的はわからないことをわからせ、難しいことをやさしくすることにある」と云われた先生の数々の蔵書が寄贈され、「人目に触れて歴史へ考えていただくきっかけになれば本望であろう」という言葉で結ばれました。

10. 北の最果て (BD)

西井 学

8分00秒

焼尻、天売島に行く(その2)という副題が付けられています。北海道の西の端に位置する二つの小島はまさに北の果ての感じ。天売島は海岸線延長12km、焼

尻島は周囲 10.6 km の小さな島です。夏の間は大勢の観光客で賑わうようです。作品はご当地ソング 2 曲に沿って 2 島の美しい風景が展開していきます。やはり本土とは違って北の荒涼とした風景が広がり、所々に島の人々の生活の息吹を感じます。やはり日本は南の南西諸島から、北海道まで長いなあと改めて国土の長さを感じます。作品中にはお祭りのシーンや、ウミウ、ゴマフアザラシ、ウトウ鳥などの自然たっぷりの情景が続いて観光気分を味わえます。夜のウトウ鳥の情景、海岸と俯瞰の風景の切り替えしなど撮影にご苦心された跡が伺えます。しかし作者がこの 2 島の旅で感じた印象をテロップにして語ってくれたら、さらにいい紀行作品になったのではと思いました。

11. 水の街伏見をゆく (BD)

森口吉正

10分40秒

大阪から程近い伏見の宇治川派流の水路を巡る舟旅が印象的な作品です。やはり森口作品らしく長建寺の名水や、大倉記念館の名水が紹介されます。「さかみず」はまるやかな中硬水で伏見の酒の美味しさの元となっているそうです。伏見らしい酒蔵の風景、寺田屋の内部、龍馬とお龍のエピソードも紹介されます。しっとりとした掘割と十石舟、森口さんらしい落ち着いた語り口と美しい映像、印象的ないい作品でした。

12. ラクダの旅 (BD)

山本正夢

10分30秒

シナイ半島で砂漠の民、ベドウィンと旅をした二日間の記録だそうです。毎回山本作品はそうですが、今回も絶対に一般観光客が行けないラクダに乗っての岩山の旅です。井上さんで行かれたそうですが、1カットだけ同行者を確認できました。砂漠というよりそれに繋がる岩山の険しい崖道を登っていきます。崖道は危険なのでラクダに乗ることは出来ません。ラクダに乗っているより歩いている方が多いなんとも凄いラクダ旅です。ベドウィンが作る根野菜、米、香辛料をいれた砂漠ピラフ、砂の上で直焼きした砂漠パン等々現地の人々が食するものと同じものを食べて旅をしたそうです。岩陰での野宿は大変寒く震えたそうです。このように大変珍しい旅の記録ですが、ラクダの上での自分撮りワンカット、野宿

が厳しかったこと、何故山間のプールへ行ったか等々、もう少しテロップで説明してくれたらもっとベドウィンとの旅行きに親しみを感じられたのではないかと思いました。それにしても何とも異色の珍しくも厳しい旅の記録を見せて頂きました。

13. 京都桜めぐり (BD)

渡辺雄史

8分30秒

桜の時期に京都へのバスツアーに行かれました。バス旅行は降りた先での時間が短く苦労することです。別に 500 円を払えばすぐに降りれる前方の席を確保できたとのこと。まず醍醐寺を手始めに、南禅寺、水路閣、インクライン、京都植物園、二条城、北野天満宮、嵐電に乗って嵐山へ行きここで屋形船に乗って舟遊びをして終わりになります。何とも沢山の観光地を巡った京都観光でした。これなら 500 円を追加してバスの先頭の席を確保した価値があったと思いました。

14. 早春の道明寺天満宮 (BD)

宮崎紀代子

9分00秒

藤井寺の道明寺天満宮の身代わり災害よけの「うそかえ祭り」の作品です。初めに参拝客に配られた小さな「うそ鳥」をお互いに交換し合い最後に太鼓の合図とともに袋の中を確認し、金・銀・木の印があれば更に大きなうそ鳥と交換してくれうというお祭りです。交換できた参拝客はさらに幸運な方となり、交換できなくとも配られた小さなうそ鳥自身が開運身代わりのお守りとなるお祭りです。沢山のうそ鳥は神職が 1 年がかり作られるそうです。作品は天満宮の梅林へと続き見事な梅や野点の席を見せてくれます。静かで純日本のお祭りだけに派手さはないが、しっとりとした情感を味わうことが出来ました。宮崎さんらしいナレーションと綺麗な映像で纏めたいい作品でした。少し気になったのは、カメラマンのカットを省略し野点のシーンからエンディングへ繋ぎ、もっとすっきりと短くした方がより印象に残るのではと思いました。

以上で時間切れのために下記の 2 本は来月に優先上映いたします。

黄昏の赤川鉄橋 (BD)

高瀬辰雄

ルッツエルン (BD)

関 剛